

国際ロータリー第 2500 地区第 6 分區

帯広東ロータリークラブ会報



ROTARY
SERVING
HUMANITY

2016-2017 年度
帯広東ロータリークラブ

会 長 高 田 進
幹 事 石 川 博 機
メディア委員長 上 野 敏 郎

「**活** : **かつ**」

第1553回例会

平成29年2月7日(火) 於 ホテル日航ノースランド帯広

■創 立 : 1984年6月15日 ■認 証 : 1984年6月18日 ■例会 : 毎週火曜日 12:30~13:30

■事務局 : 帯広市西3条南9丁目 帯広経済センタービル4F Tel.0155-25-7347 ■会場 : ホテル日航ノースランド帯広

S.Mori



2016-2017 年度 国際ロータリーテーマ

【人類に奉仕するロータリー】

2016-2017 年度国際ロータリー会長

ジョンF・ジャーム

ガバナーテーマ

【ロータリーの明日の為に、積極的に行動しよう】

国際ロータリー第 2500 地区 ガバナー

駒 形 曙 美

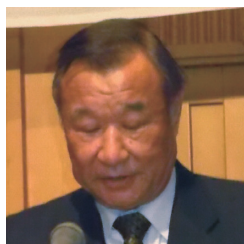
月間テーマ

【平和と紛争予防 / 紛争解決月間】

- ◎総 合 司 会 帯広東 R C 加藤雄樹 S A A
◎点 鐘 帯広東 R C 高 田 進 会 長
◎開 会 宣 言 帯広東 R C 加藤雄樹 S A A
◎ロータリーソング 「奉仕の理想」
◎講 師 入 場 先 導 帯広東 R C 鎌 田 勉 副 会 長
◎ゲスト紹介 帯広東 R C 高 田 進 会 長
元米山記念奨学生 医師 山分ネルソン祥興 様

会長挨拶

高 田 進 会 長



本日の七クラブ合同例会に多数のご出席いただき大変ありがとうございます。平日のお忙しい中、調整をしてのご出席された方も多しと思います。

この合同例会の為に、市内5クラブの会長、幹事の皆様のご協力、ご協議をいただき開催できる事になり、心からお礼申し上げます。

本日のプログラムの講師は、マレーシアからこられて日本国内で産婦人科医師としてご活躍されており、かつては米山奨学生でもありました。ご存じのように米山奨学会は、外国からの留学生に奨学金を支給し、学業に打ち込んでいただき、将来、日本との懸け橋になってもらいたい、という目標の元、設立されました。

日本で民間最大の給付型の奨学金制度と言われている。毎年多くの留学生にこれだけ長く継続してこれた事は、過去の会員はじめ会員全体の大きな社会功績だと思います。

自分もクラブ内で米山委員長やカウンセラーの経験をしてきました。異国の留学生との触合いは貴重で興味ある経験でした。奨学生は歴史や文化、民族、宗教、習慣が違う中、異国語での高度な学習に打ち込み且つ、日本社会にとけこむ必要があります。

今回の講師は日本大好きで日本に恩返しをしたいという気持ちで医師として日本で活躍されていると聞いております。私は多分、彼の当時のカウンセラーの方との関係が大変良好だった、あるいは、クラブ会員との交流が良好だったのではと思います。奨学生は大変な競争の中、合格し、奨学生となっても、卓話やレポート、例会への参加の他に非常に厳しいルールを守らなければ、奨学金を打ち切られます。

講師の体験と感謝の気持ちは、我々も現状を知り、過去と将来の留学生にとっては、母国と日本での重要な役割を担う、意識を植え付ける事と思います。

以上、挨拶とさせていただきます。

会務報告

石川博機 幹事

◎帯広東 R C 夜間移動例会開催のご案内

日時 : 平成29年 2 月28日 (火)

午後 6 時30分

場所 : 幕別パークホテル悠湯館

会費 : 4,000円

プログラム

音更 R C 行木国際奉仕委員

【講師経歴紹介】

音更 R C 行木隼人 会長

本日この合同例会の講師である山分ネルソン祥興先生を紹介いたします。

彼と私は大学生の時に競技ダンスで知り合い、その縁で今回講師としてお招きしました。

ネルソン先生は昭和48年 9 月 9 日生まれ、医療法人志紀会理事長、希咲クリニック医院長、日本産婦人科学会専門医、日本医師会母体保護法指定医、日本ロータリー E クラブ所属などの肩書きを持っておられます。

経歴としてはマレーシア島出身で、憧れていた日本に単身で留学しに来ました。

複数のアルバイトをしながら苦学して北海道大学薬学部に入學。大学在学中の2年間、札幌北ロータリークラブの米山奨学生として勉学に研鑽しておりました。卒業

した後、大阪大学医学部にも入学し卒業。大阪市立豊中病院勤務時に、研修医賞を受賞。その後、希咲クリニックを設立。ドクターネルソンメディカルカフェも開催しております。

演題：【元米山奨学生が見た、希望の花を咲かせる国、日本】

医師 山分ネルソン祥興 様

本日このような素敵な会にお招きいただき本当に心から感謝しております。

私は米山奨学生として見ましたジャパニーズドリーム。このジャパニーズドリームは私自身で成し遂げた訳ではありません。ここにいるロータリアンの皆様のおかげです。皆様の米山奨学金制度によって成し遂げたジャパニーズドリームです。

本日、話をさせていただく内容は、自己紹介、ロータリークラブとの出会い、そして米山奨学金で変わったジャパニーズドリームって何でしょうか？、そして今後の目標。4つの話をさせていただきます。

まず自己紹介いただきましたように、大阪出身ではありません。このなまった日本語はマレーシア出身だからです。

1973年9月9日イポーという田舎の町で生まれました。私の生まれた町では、日本で廃車になるような古い車がまだ元気に走り回っています。

よく勘違いをされるのは、日本に来て医者になれるぐらいだから金持ちなの？といわれますが、私の父親は昔三輪車をこいで、お菓子屋さんをやっていました。住宅街を三輪車で私と兄が後ろを押しながら「お菓子いかがですか」と走り回っていました。

その後、露天になり、屋根付きの屋台へと変わってきました。小さい頃、家の手伝いをしながら勉強していました。懐かしいです。

普通、子供というのは学校が終わったら、部活動にいったってサッカーやバスケットボールをしたり、楽しい学校生活なのですが、学校が終わったらすぐに家の手伝いをしていました。

よく「将来の夢はなんだったのですか？」と聞かれますが、医者になりたいとかとんでもない話で1度も考えたことはありませんでした。何になりたかったかというサラリーマンになりたかったです。母は学校に行ったことがなく、字を読めない、計算できない、読み書きもできないのです。父は小学校2年生で中退です。戦後の貧しい時代でしたので、私の家族で中学校を卒業した人がいなかったのです。なので肉体労働しか仕事がありませんでした。

そのせいか、私はサラリーマンが凄くうらやましいと思っていました。店で売のお菓子を家で蒸したり焼いたりしていると、熱帯雨林の国なので、ただでさえ毎日30度を超える密封された部屋は熱くて地獄のようでした。それなのにサラリーマンは冷房付のオフィスで仕事して凄い給料がもらえて、凄く憧れていました。



何が何でも中学校までは絶対卒業したいというのが、私の夢でした。中学校に上手く行け、高校も卒業出来ました。

その頃から、私は日本に非常に憧れました。何故かといえますと自分の日常生活を見ると、訳の分からない言葉で「トヨタ」「スズキ」「東芝」「ソニー」と意味も解らない言葉です。この言葉の意味を先生に聞くと『全部日本語なんだよ』といわれて『え！』と思いました。日本ってそんなに凄い国なのか。自分の周りのすべての物を日本が作っていたんですよ。

日本ってどんな大きな国かと思ったら小さな島国で、日本人の生産能力はこんなに凄いんだと小さい頃は非常に印象に残っています。

新幹線とか超高層ビルとか超現代的な国であり憧れの国です。また独自の文化、伝統、着物、お寺、お城とか、それらが残っているのは非常に珍しいことです。

アメリカは最先端の技術はありますが、歴史は余りない。歴史がある国だと先進国には余りなれない。日本は両方持っています。なかなかこんな凄い国はないです。

あと一番感動したのは「おしん」です。「おしん」を見て日本にもこんな時代があったのか？と凄く驚き、それと同時に自分の国マレーシアが情けないと思いました。

何故か、皆さんも考えて下さい。

戦後の復興時は、日本は何にも無く焼け野原の状態でした。その頃のマレーシアは何でも持っていました。イギリスの殖民地でしたが、欧米の文化・技術が全部手に入ります。そして熱帯雨林が多く木材も取れます。石油も取れます。資源もあります。それなのに同じ30年間たったなら、日本は世界トップの国となり、マレーシアは未だに発展途上国です。何ですか？日本人っておかしいどんな脳の構造をしているかと思ったものです。

そしたら日本という国に非常に憧れ、どうしても行きたいと思いました。そのとき私は両親に「一生この国で貧乏で飢え死にするくらいなら、海外に行って飢え死にしたい」とお願いしました。

親は借金をして片道の航空券と3カ月分の日本語学校の授業料を揃えてくれました。『後は自分で頑張ってくださいよ』という感じで日本へと来ました。

最初は東京の日本語学校に行きました。

東京にいたとき、「鶏の唐揚げ事件」というのがあります。新聞配達とか居酒屋の料理の助手をしていまして、5時までは日本語学校があり、6時から居酒屋のバイトでお腹が減ります。若い18歳の男が、昼12時にご飯を食べてから夜の12時まで何も食べてないので、お客さんが食べ残した美味しそうな鶏の唐揚げを捨てるんです。凄く残酷なのです。お客さんの食べ残した鶏の唐揚げをこっそりポケットに入れて休憩中のトイレで食べました。トイレの臭いとか唐揚げの臭いが混ざり合って何ともいいようなない臭いの中、美味しく食べていました。

勉強もしなければならぬのですが、暖房も付いていないボロイアパートの中は寒くて勉強ができない。ではどうすればいいか。朝早く起きて山手線に乗ります。何故かという電車の中は暖房が付いており寒くないのです。山手線というのはクルクル回るので終電の心配はなく、

図書室の代わりに本をずっと読んでいました。

犯罪者にも間違われました。当時、90年代初頭の日本はバブル時代で、海外から日本に不法滞在とか不法労働をする人がたくさんいて、留学という名目で日本に来て急に蒸発して学校にいかずに不法労働する人が多かったです。当時日本のビザ申請は非常に厳しく、1年か2年以内に日本語学校を卒業できない、専門学校とかに受からないと、ビザの延長ができず国に戻されるシステムです。でも親が借金してまで日本に送ってくれたので、手ぶらでは帰れず、逮捕されるまで不法滞在・不法労働をして親にはお金を返そうとも思いました。

そんな私は、大学生になるか犯罪者になるしかない、究極の選択肢の中で頑張りました。

次の年には、北海道大学の薬学部に受かりました。

そこがロータリークラブとの出会いです。

実は北海道の札幌でもいろいろな出来事がありました。

例えば「ハト事件」。札幌にはあまり外国人がいなかったため、アルバイト募集の電話を掛けただけで、『外人はお断りしております』と。一時期はバイトがなかなか見つからずお金がドンドン無くなって、お米さえも買えなくなりました。当時は日本の米不足でタイ米が輸入される前のお米がとても高くご飯も食べられず、パン屋さんでパンの耳を20円で買い、2週間パンの耳を食べてました。ある日パン屋さんにいったら、パンの耳は全部無くなって、何故かなと思ったらパンの耳って鳩のえさとして売っていたんですね。それ私のご飯だよと……。

そのあと「吐血事件」というのもありました。パンの耳もないしお金もない、それでススキノの安いホストクラブみたいな所でアルバイト募集中と書いていたので、面接にいくと、『君は外人か。でも外人も面白いかもな』ということで採用になりました。お客様に飲まされトイレで吐いてはまた飲まされて吐いての繰り返しで、そのうち吐血をしてしまい、このようなことをしていたら死んじゃうよなと思いました。

そんな時にダンス部の先輩と出会いました。そこで行木さんとの出会いがあったんですが、日本ではじいちゃんとかばあちゃんが社交ダンスをよくしています。大抵はじいちゃんの方が早く亡くなるので、ばあちゃんの相手がおらず、若い大学生が社交ダンスをやってくれるならバイトになるよといわれて稼いだことがあります。普通ダンスは楽しむものなのですが、私は生活のためにダンスをやっていました。

話は前後しますが、不健全な生活ばかりしてはいいつか死ぬんだろうなと思いつつ、そのようなときに助けて下さったのは米山奨学金でした。このときお世話になったのが札幌北ロータリークラブでした。

このときの気持ちは、本当に米山奨学金はありがたいと。お金の面だけではなくて、週1回例会に行きます。正直いうと最初はめんどくさいなと思いました。でもその後は非常にありがたいと思えたのです。週1回カウンセラーの方に会える、また皆さんが笑顔で迎えてくれ、元気かいとか家族みたいな気持ちでした。

私は米山奨学金で生活していたかというところではありません。米山奨学金を貯めてました。何故かという、

だんだん人生が悔しくなってきた、良い医者になりたいな、貧乏だったら医者になれない世の中なのはそれでいいのかと。医者になるため、米山奨学金を貯めて大阪の大学に入学できました。何とか卒業をし、めでたく医者になりました。

そのときに1つだけ思ったのは、産婦人科医にはなりたくないと思いました。大変です。36時間勤務なので当直1日24時間したら次の日また仕事です。このような勤務が週2〜3回ほどあります。このような勤務の産婦人科医だけはやりたくないと思っていました。

ですが自分の長男が生まれたとき結構大変だったので、もちろん嫁も大変だったんです。どうしようと思っていたときに産婦人科の先生が入ってきて、大丈夫ですよといってくれて何もしてないですけど、先生の存在だけで安心できるということで、無事に長男も生まれました。

その時にその先生に凄く感謝して、産婦人科医になりました。

ここで1つの私の人生の夢を叶えたのですが、産婦人科というのは大変で、私の友人も過労で自殺をしました。そのあと福島県の大野病院事件というのがあり、先生は頑張ったのですが患者さんは助からなかった。でも先生は出来ることは全部やりました。でも遺族ともめました、警察が患者さんを医療ミスで死なせたとして逮捕してしまいます。それが凄くショックでした。

これでは誰も産婦人科のやり手がいらない、ただでさえこんな危ない仕事なのに。非常に腹が立って当時の厚生労働大臣の舛添大臣に手紙を書きました。

3日後に舛添さんに会いにいきまして、今は評判は悪いんですけど、その当時は総理大臣ナンバーワン候補になっていました。その時なぜか説得されてしまい、君がそんなに怒っているのなら立候補しなさい。参議院選挙に出なさいといわれました。『無理です』といったのですが俺がちゃんと教えてあげるからと、金も無い何も無い資格も無い人でも自分のいいたいことがいえるのが民主主義の国家ですよと。

調子に乗って大阪で参議院選挙に立候補しました。なんといえいいのか分かりません。受かるわけないやん。最初はマスコミに非常に馬鹿にされ、貴方の名前は聞いたことないし、君は5千票でも1万票でも取れば立派やでといわれました。何と12万票取れました。案外世の中捨てたものでもないかと思いました。

普通なら分けの分からない政党から立候補して、落選すると政界からは声が掛からないのですが、天下の自民



党から今度はウチから立候補してよとオファーがありましたが、自民党の中でも何かもめたらしいです。

何故か選挙が終わってから怪しげな出会いがありました。あるおっさんが私に近寄ってきて、『貴方の街頭演説を聞いて感動した。俺、建物いっぱいもってんねん。1番いいとこ貸したるから改装しろ』といわれて。あなたは何屋さんですかと聞くと、『不動産です』と。こんな美味しい話はないと思いましたが、うさんくさいし怪しいから無視をしていました。

無視をしていたらこのおっさんは本気になって、弁護士とか開業のコンサルタントとか集めて、山分ネルソンを開業させる会を立ち上げて。場所はどこですかと聞いたたら『大阪十三で開業しなさい』と。こんなうさんくさい所で開業できるかいと。後からこっそり見に行ったら凄くいいとこでした。角で駅から徒歩10分と良い場所でした。それでも私はお金が無かったのでお断りをしたのですが、りそな銀行の支店長から電話が掛かってきて、無条件で山分ネルソンという人の連帯保証人になりますと伝えたらしいです。その人が持っている土地と建物を担保に入れて山分ネルソンの開業資金を融資しろという圧力をかけたみたいです。

そういういきさつで仕方なく開業しました。しかし恩返しをするために、婦人科医と偉そうにしていますが、女性は乳がんも大事なので同級生に乳腺外科の専門をしており、今うちでのクリニックは婦人科と乳腺外科を一緒にやっています。関西では婦人科と乳腺外科を同時に診るクリニックはうちが初めてらしいです。

医院の名前がなぜ希咲クリニックかというと、死ぬ気で頑張って、希望の花を咲かせる国、日本。希咲ということです。

ではこの3年間で希咲クリニックで何があったかというと、乳がんの検査で乳がんを60人以上見つけました。子宮頸がんも20人以上そのうち3人は18歳の子です。子宮体がん卵巣がん10人以上、不妊治療で生まれた赤ちゃん75人、救急車を呼んで緊急手術があったのは8回位。100人以上の命をここ3年間で、私の開業で助かりました。

すべてロータリアンの皆様のおかげなのです。皆様の米山奨学金が無ければ、私が医者になれませんでした。私が医者にならなければこの人達が生まれてこなかったりしました。助かった命は皆様のおかげです。

今後の目標ですが、私の親友なのですが、新婚の旦那さんが急に泣きながら嫁ががんなんですといわれて、ぱっと見たら子宮頸がん。がん健診いってないの？と聞い

たら恥ずかしくてがん健診にいってないと。私若いから大丈夫かと思ってと皆さんそう思っていますね。

余りにも悔しくて病気になってからでは何もできない。世の中の人に正しい医療知識を伝えたいと思っています。今後の私の目標は、メディカルカフェ。カフェでお茶をしながら医学の勉強をしましょうと。これをご紹介しますてください。

なんの儲けもありません。最初はこんなことやっても誰も来ないでしょうと思いました。5人位来てくれればいいかなと思っていたのですが、1回目で50人位集まってレストランで皆でご飯を食べながら、乳がん・子宮がんの話をしました。そういう話を聞いて、聞いたことを娘に話したり知り合いに話したりして、話を広げてもらいたいと思います。それも1つの社会奉仕だなと思いました。医学知識を広げて知らないうちに人の命が助かると。社会奉仕も我々ロータリアンの大事な活動の1つではないかなと思います。

先日も関西テレビに呼ばれたり、4月には毎日新聞に頼まれて講演会をさせていただきます。今後もそのような社会奉仕活動を頑張っていきたいと思います。

私は今ロータリークラブに所属していますが、昔米山奨学金をいただき、絶対ロータリークラブの皆様之恩返しをしたいと思いました。今日も寄付を皆様と同じロータリアンとして出させていただきました。

以上、ご清聴ありがとうございました。

謝 辞

帯広南RC 小川芳勝 会長

山分ネルソン祥興先生、本日はとても素晴らしい講演をしていただきまして本当にありがとうございます。とても、一言でこの場でお礼といっても、大変なご苦労をされ憧れの日本に来て、そしてけして裕福とはいえない環境の中で、このように立派に活躍されていらしゃいます。冒頭に音更ロータリークラブの行本会長がいろいろな説明もありましたし、そういった中で憧れの日本に片道航空券を持って来たということで、私も本当に心を打たれました。沢山の学位を身につけられまして、希咲クリニックを立ち上げまして、そういう忙しい中で医療の仕事をしてながら、傍らにこのような講演・講座の活動にも取り組んでいらっしゃるということで、本当に感激致しました。

今日は山分先生のお話を聞きまして、私たちロータリアンは米山奨学生を応援して、これからもお役に立つことと思います。

大変簡単ではございますが、山分先生の益々のご発展とご健勝を祈念してお礼とさせていただきます。

本日は遠いところまでお越しいただき誠にありがとうございます。



◎講師退場
◎閉会宣言
◎点 鐘

先導 帯広東RC 鎌田 勉 副会長
帯広東RC 加藤 雄樹 SAA
帯広東RC 高田 進 会 長